



業況DIは、2カ月連続悪化。先行きは不透明感残るも、底打ちの兆し

ポイント

▶5月の全産業合計の業況DIは、▲21.8と、前月から▲7.7ポイントの大幅悪化。ただし、「好転」から「不変」への変化が影響したことに留意が必要。建設業や自動車関連などは堅調に推移したものの、一部では、4月にずれ込んだ受注残の消化による業況の押し上げ効果が今月に入り剥落したほか、小売業を中心に駆け込み需要の反動による影響が残る状況が伺える。また、業種を問わず、仕入や電力料金、人件費などのコスト増が続く中、価格転嫁が進まないとの声もあり、地域の中小企業においては、業況改善に遅れがみられる

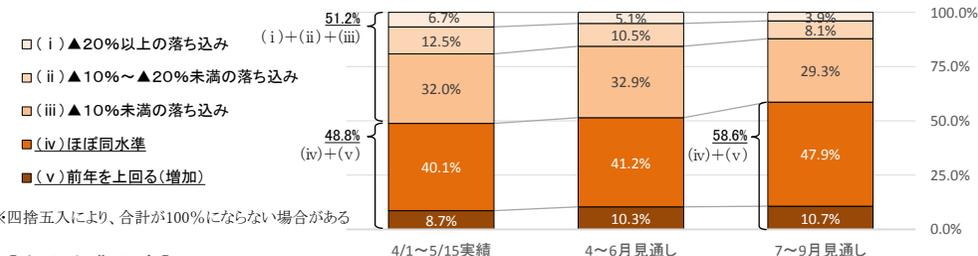
▶先行きについては、先行き見通しDIが▲20.8(今月比+1.0ポイント)と、ほぼ横ばいを見込む。仕入や電力料金、人件費などのコスト増加分の価格転嫁に加え、受注・売上の回復遅れや消費者マインド低迷の長期化などへの懸念から先行きに対して慎重な判断が続く。他方、賃上げなどを背景に個人消費が下支えし、夏から秋にかけて回復するとの声が聞かれるなど、前向きな見方も伺える

消費税率引き上げ後の売上・受注の見通し

▶消費税率引き上げ後の売上・受注(前年同期との比較)は、4月から5月15日の実績が落ち込んでいる企業(全産業)は51.2%((i)+(ii)+(iii))。他方、「ほぼ同水準」または「前年を上回る」との回答は48.8%((iv)+(v))、7~9月に58.6%((iv)+(v))に達する

▶業種別では、4~6月の見通しが「ほぼ同水準」または「前年を上回る」との回答が建設業の66.3%に対し、小売業では27.2%(7~9月については41.0%)

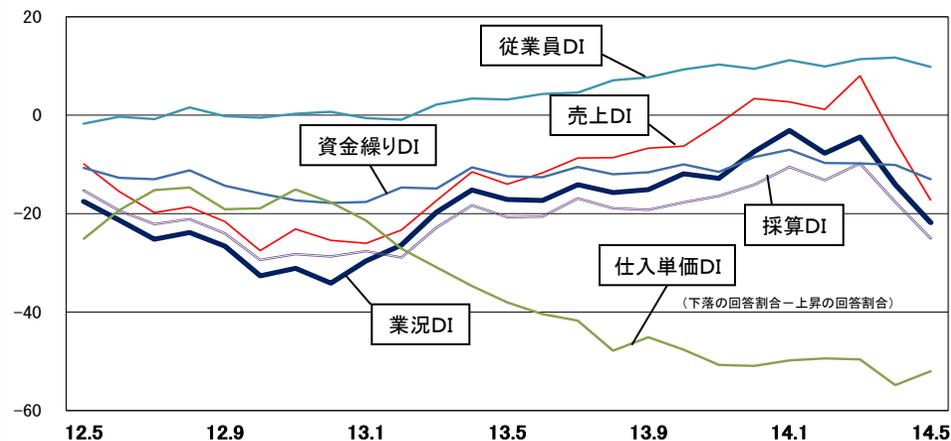
◆前年同期と比較した売上・受注の実績及び見通し



[中小企業の声]

▶足元の落ち込みから売上は6月以降に回復、7~9月に前年並みを予想(村上 旅館業)
 ▶反動減は想定以上。新商品の導入で6月以降の売上回復を目指す(名古屋 車載製品販売業)
 ▶駆け込み需要、反動減共に大きく、売上の回復は秋口を見込む(海南 美容用品販売店)
 ▶消費税率引き上げ後も売上は堅調。3~5月をならせば影響はほとんど感じられない(洲本 建築資材製造業)

LOBO全産業合計の各DIの推移(2012年5月以降)

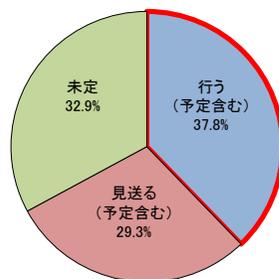


2014年度の設備投資

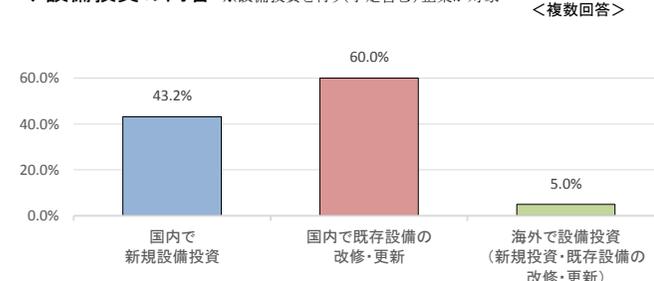
▶設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は37.8%となり、前年同月の調査(38.1%)から横ばい。「見送る」とする企業は29.3%、「未定」は32.9%

▶設備投資内容は、「国内で新規設備投資」(全産業)が43.2%と前年同月(34.4%)から増加、積極的な設備投資に取り組む企業が増えつつある

◆設備投資の実施の有無



◆設備投資の内容 ※設備投資を行う(予定含む)企業が対象



[中小企業の声]

▶今年は見送るが、来年度に大きな設備投資を行い生産能力を増強する(山形 鋳物製造業)
 ▶公共工事等により業況が改善。建設機械の買い替えを行った(徳山 土木・建築工事業)
 ▶今後の見通しが不透明。7月以降、設備投資を行うか判断する予定(今治 アパレル製造業)
 ▶工場及び建設現場向けの売上が好調。今後の販売量ならびに社員数の増加に対応するため、事務所や倉庫を新設する予定(諫早 ワイヤ等卸売業)